

NPO 法人才の木トークカフェ「放射性物質汚染地域の森林・林業はどうなるのか？」の概要
国立研究開発法人森林総合研究所 石川敦子、高野 勉

※全文は木材工業 71 巻 10 号に掲載されています。

【はじめに】

平成 28 年 6 月 11 日に東京大学弥生講堂アネックスにおいて、NPO 法人才の木トークカフェ「放射性物質汚染地域の森林・林業はどうなるのか？」が開催された。本会の企画に当たっては日本木材学会環境委員会放射線影響小委員会の全面的な協力を得たことから、NPO 法人才の木と一般社団法人日本木材学会の共催行事となった。(中略) トークカフェの趣旨や開催までの経緯については既に報告されているので(木材工業 70 巻 9 号)、興味のある方は参照して頂きたい。

今回のトークカフェは、2011 年の東日本大震災発生から 5 年が経過し、一時期に比べると大きく取り上げられる機会が少なくなってきた放射性物質汚染地域について、現状を正しく理解した上で問題点を整理し、その対策について、実証事業による実例等を紹介しながら、地域復興・林業再生に向けた議論を行うことを目的として行われた。話題提供は、NPO 法人才の木・理事((研)森林総合研究所)の高野勉氏と、宇都宮大学農学部・教授の飯塚和也氏の 2 名から行われることが予定されていたが、高野氏が急用で出席できなくなったため、同話題提供については NPO 法人才の木・理事長の福島和彦氏(日本木材学会副会長、名古屋大学)が高野氏の準備した原稿に基づき代講することとなった。また、トークセッションには、金子真司氏((研)森林総合研究所 戦略研究部門長、震災復興・放射性物質研究拠点長)が代理参加された。本トークカフェの概要について、当日参加することのできなかった高野氏より発表資料や補足情報を頂きながら、共著という形で報告させて頂く。

【話題提供 1 放射能による森林汚染の現状と林業・林産業再生への課題】

NPO 法人才の木・理事((研)森林総合研究所) 高野 勉氏

※NPO 法人才の木・理事長(日本木材学会副会長、名古屋大学) 福島和彦氏による代講

まず、森林における放射能汚染の現状が、測定データとともに紹介された。福島県内における空間線量率は、概ね放射性セシウムの物理減衰(自然減衰)に従って減少しており、森林外への放射性セシウムの移動はないとのことであった。また、2011 年の時点では、森林内の放射性セシウムは葉や枝、落葉層といった地上部に 7~8 割程度、土壌に 2~3 割程度分布していたが、2015 年には葉や枝、落葉層に 1 割程度、土壌に 9 割程度という分布に変化していたというデータが示された。葉や枝、樹皮では、表面に付着した放射性セシウムが雨水により溶脱したり、葉が入れ替わったりすることによって濃度が低下したと考えられるそうである。(中略) また木材の放射性セシウム濃度は、葉、枝、樹皮に比べると 1~2 桁低く、材内での分布も大きな変化が無い場合が多いとのことであった。樹皮については、今

後の利用や処分方法が課題となっているとのことであった。(中略)

さらに、キノコと山菜についても需給状況の推移と汚染状況の説明があった。福島県における栽培キノコの生産額は、震災直後の2011年には、震災前の2010年の約半分程度となり、生産量についても原木栽培・菌床栽培とも大きく減少した。また、福島県が主要産地であったキノコ栽培用の原木生産も大きく落ち込んでいる。キノコと山菜の汚染の程度は、野生の場合は種類によって、栽培の場合は栽培方法によって大きく異なるそうである。(中略)

次に、林業・林産業再開に向けて行われている取り組みの事例が紹介された。例えば、皆伐・間伐・落葉除去等の作業による空間線量率の変化と放射性セシウムの移動量の把握、林床被覆工事(客土吹付、木材チップ散布)による空間線量率の低減効果の検討、森林施業従事者の外部・内部被ばく線量の把握、植栽木・萌芽枝に含まれる放射性セシウム量の測定、キノコ栽培技術の検討といったことが行われているそうである。

この他、東京農業大学・江口文陽氏が作成した「風評被害を回避するきのこの高付加価値化への挑戦」と題した資料と、日本木材学会環境委員会放射線影響小委員会・田野井慶太郎氏(東京大学)のとりまとめた資料が紹介された。

(中略)

最後に、森林と放射能に関する情報を入手することができるURLが紹介されていたので、以下に記載しておく。

・リンク集

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/rad/index.html>

・パンフレット

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/rad/documents/rad-hukushima2015.pdf>

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/142599.pdf>

・テキスト

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/158120.pdf>

【話題提供2 宇都宮大学演習林における取り組み—調査研究と林業作業・学生実習】

宇都宮大学農学部・教授 飯塚和也氏

まず、大学の演習林で放射性セシウムに関する調査を開始した理由について説明があった。宇都宮大学が、東日本大震災による災害救済法の適用を受けた被災地域にあったため、演習林のある栃木県塩谷町が環境省の汚染状況重点調査地域に指定されたため、震災の学生実習への影響と演習林スタッフの労働条件の把握のため、福島県出身の学生の関心が高かったため、販売する木材への影響の把握のため、山菜・キノコ等の汚染状況や森林生態系・地域農業・生活環境への影響の把握のため、汚染された森林の再生に向けてのデータの収集のため、といったことが挙げられていた。

次に、具体的な調査内容が紹介された。調査はスギ立木(間伐材と主伐材)や若齢な植栽木を対象として行っており、樹幹木部の放射性セシウム濃度(樹体への初期沈着の影響)や、

植栽木の経根吸収が放射性セシウム濃度に及ぼす影響を検討しているとのことであった。

(中略)

大学演習林における放射性セシウムに関する調査の主な結果として、当初心配されていたようなスギ樹幹内部の放射性セシウム濃度の増加は検出されていないこと等が紹介された。

また今後の課題として、森林生態系および樹体内における放射性セシウムの循環や、植栽木の経根吸収挙動の解明、林業活動における労働者の安全・健康管理、枝条や樹皮等の林地残材の適正な処理といったことが挙げられていた。

この他、演習林における学生実習の風景が多くの写真とともに紹介され、様々な活動を行っている様子をうかがうことができた。

【トークセッション】

上記2つの話題提供の後、NPO 法人才の木・理事長である福島氏の司会のもと、コーヒーを飲みながらのトークセッションが行われた。来場者の関心が高く、話題提供者の飯塚氏と、高野氏の代理として参加していた金子真司氏（(研)森林総合研究所 戦略研究部門長、震災復興・放射性物質研究拠点長）には様々な質問が投げかけられ、意見交換も活発に行われた。(中略) 午後から開催されたトークカフェであったが、内容が盛りだくさんで、語りつくせないという印象であった。